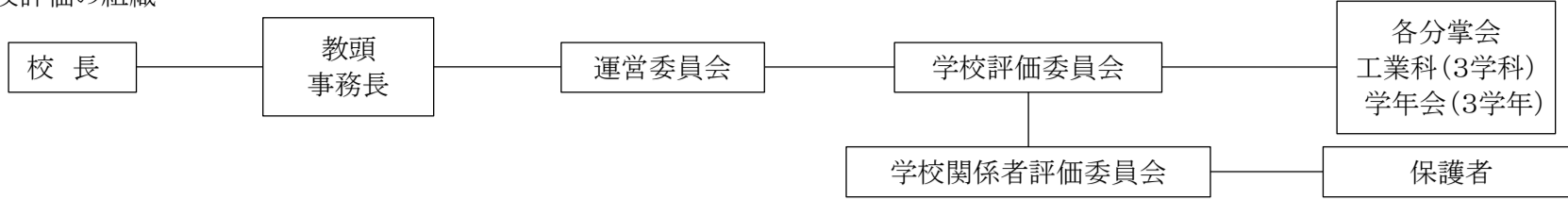


学校評価

(1) 学校評価の組織



(2) 学校評価の年間計画

| 時期 | 運営 | 会議等 |
|----|-------------------------|--------------------------|
| 4月 | 学校経営方針及び重点目標の設定 | 第1回学校評価委員会 |
| 5月 | 本年度重点目標の周知 | PTA総会 |
| 9月 | 中間評価 | 第2回学校評価委員会 |
| 2月 | 成果と課題をまとめ、改善の方策を検討 | 第3回学校評価委員会 |
| 3月 | 学校内外の評価のまとめ 次年度目標の検討 | 第4回学校評価委員会 学校関係者評価委員会 |

(3) 本年度の学校評価

| 項目(担当) | 重点目標 | 具体的方策 | 留意事項 |
|--------------------|---|--|---|
| 重点目標(平成31年度) | 校訓「技術者たる前に人間(ひと)たれ」の精神のもと、技術・技能とともに心も磨かれた社会の人財となるチャレンジ精神旺盛な人材の育成を目指す。 キーワード：SKILLS & SPIRITS (技と心を磨こう) 実践メ・リ・エ (めげずに挑戦・理想へ考動・笑顔で会話) 徹底5S (整理・整頓・清掃・清潔・しつけ) | | |
| 総務 | ・防火・防災意識の向上 | ・登校中に災害が発生したときの行動について、及び講義、映像などを使って災害の知識を学ぶ。 | ・災害発生時において安全な登下校ができるように考えさせると共に、地震などの自然災害などについて考える機会を設ける。 |
| | ・PTAとの連携 | ・導入2年目となるきずなネットの有効利用。 | ・基本的に非常時・災害時の利用としているため、大きく逸脱しない範囲で活用する。 |
| 教務 | ・授業を充実させ、学力の向上を図る。 | ・授業規律を正す。学習に集中できる環境を作る。 | ・授業の様子や課題提出状況などを「学習状況報告書」を活用して教員間で情報を共有する。 |
| 生徒指導 | ・基本的生活習慣の確立 | ・挨拶の励行、5分前行動の徹底、身だしなみを整えさせる事により基本的生活習慣の確立につなげる。 | ・授業規律の向上による。 |
| | ・規範意識の向上 | ・法令、校則の遵守させる。 | ・講話等を通じ、生徒自身に考えさせる。 |
| | ・いじめの未然防止に関わる取組の充実 ・いじめの早期発見、適切な対処、再発防止 | ・全校朝礼や学年集会、HR活動において、いじめ防止をテーマにした活動を行い、生徒がいじめを主体的に考える機会を設ける。 ・いじめの情報収集、事案対処に係わる学校いじめ防止対策組織の役割を具現化し教職員間で共有するとともに、生徒や保護者にも周知する。 ・「人権(いじめ)アンケート」の実施方法やその後の対処の在り方について検証し、結果の活用と組織的な相談体制の充実を図り、いじめの早期発見、適切な対応に繋げる。 | ・生徒がいじめ問題について主体的に考え、自らに関わる問題と捉えるようにする。 ・担任会、学年主任会等を通じた日頃の情報収集と、アンケートの実施方法、速やかな組織的対応、きめ細かい指導による再発防止に取り組む。 |
| 特別活動 | ・校内行事の整理と充実 | ・球技大会のルールを明確にし、スムーズに運営を行う。 ・体育大会の円滑な実施に向けて内容や方法を検討する。 ・文化祭における出展の負担を軽減し、生徒の安全作業に努める。 | ・行事の詳細内容を会報や生徒会掲示板を活用し、スムーズな運営が行えるように努める。 ・文化祭の内容を吟味する時間を多くとり、話し合いを重ねる。 |
| | ・ボランティア活動の活発化と環境活動の効率化 | ・各ボランティアの募集、活動内容紹介など掲示板に随時あげながら、広報活動を活発にする。 ・ペットボトルキャップ回収を定期的に行う。 ・人力発電機の活用を行う。 | ・いろいろなボランティアを紹介し、できるだけ他のボランティアにも積極的に参加しやすくする。 ・キャップ回収活動について、常に掲示板等で紹介していく。 ・人力発電機の周知協力を促す。 |
| 進路指導 | ・就職率100%の維持 | ・講話等を通じて社会の人財について考える機会をつくり、自ら考える力を身につけさせたいと就職させる。 ・面接や小論文、グループワーク指導により、コミュニケーション力を育成する。 ・担任を通じて生徒へ情報提供をする。 | ・社会の人財となることを念頭に、知・徳・体の育成を図る。 ・生徒の希望と企業の要望とのミスマッチがないよう情報提供を充実させる。 |
| | ・進学希望に応える受験指導 | ・大学受験の相談、支援を充実させる。 ・専門学校等の紹介機会を充実させる。 ・新入試に向けて準備を進める。 | ・進学情報を収集し、志望校選びや受験方式の選択などについて支援する。 ・入試形態の変化を把握する。 |
| 保健 | ・組織的な教育相談活動の充実 ・安全、安心な学校環境の確保 | ・定期的な相談委員会の開催 ・安全点検によって、校内の不良箇所を早期に発見する。 | ・時機に合わせた情報交換をし、適切な対応を検討する場とする。 ・事務と連携を密に図り、校内の不良箇所に対して迅速に対応する。 |
| 図書 | ・工業高校としての特色ある図書館の整備 ・生徒の読書を推進する図書の充実 | ・工業への関心を高めるために専門書の充実を努める。 ・生徒図書委員を中心として読書に関心を持つ図書の充実を図る。 | ・工業科の必要な本を購入して、工業高校らしい図書館を構築する。 ・「図書館だより」などを利用して本の紹介などに努め、図書運営を生徒図書委員と共に進める。 |
| 研修情報 | ・校内LANの整頓 ・現職研修委員会の役割の見直し | ・10年以上経過したHUBを新しいものに交換していく。 ・現職研修を各部に依頼し委員会でまとめる。 | ・校内のケーブルの接続を確認し整頓に心がける。 ・各部の協力が得られるようにする。 |
| 工務 | ・安全作業の徹底 | ・「5S」を推進する ・「報告・連絡・相談」ができるように指導する | ・「危険予知(KY)」についても研究を進める |
| | ・地域との連携 | ・地域の行事(お祭りなど)に積極的に参加する ・中学校の高校見学を受け入れる | ・事前準備を適切に行い、多忙解消に努める |
| | ・業務の標準化 | ・各業務のマニュアルの作成 | ・業務遂行に必要な技術などを伝承できるようにする |
| 機械科 | ・5Sの徹底による実習室の整理整頓と安全 | ・ルールを守り、実習室を整理整頓し安全に授業を受ける。 | ・使った物はあった場所へ返却する |
| 自動車科 | ・目標(自動車整備士取得)達成への意識の向上 | ・国家検定三級自動車整備士の取得願望を向上させる。 ・6月の県工研自動車整備士検定合格者を増やし自信をつけさせる。 | ・知識、技術の向上だけでなく、目的意識を高め、卒業後の受験日まで取得願望が下がらないよう留意する。 |
| 電気科 | ・3S(整頓、清掃、しつけ) | ・実習室の整頓、清掃、生徒の向上心を身に付けさせ、自主的に行動でき、提出物の滞りを無くす。 | ・その都度気づいた職員が、必要か必要でないか分類し、引き出し等表示をし、不要なものを捨てる。 ・提出物の確認を早めに行い、確実に生徒に連絡をする。職員間でも提出物の状況を確認する。 |
| 1年 | ・基本的生活習慣の確立及びコミュニケーション能力の向上 | ・時間・ルールやマナーを守る基本的生活習慣を身につけさせ、高校生として適応できる能力を育成する | ・挨拶や5分前行動など学校生活で身につくよう心がけ、他人の話を聞き自分の意見を言えるような雰囲気作りで留意する |
| 2年 | ・進路設計に対する意識の向上 | ・工場見学やインターンシップなどを通して、働くことの意義や職業観を育成し、意欲的に仕事に取り組む姿勢を身に付け、自分の進路を主体的に選択・決定できるように指導する。 | ・目的意識を明確にするため、インターンシップや工場見学の事前学習、見学後のレポート指導について留意する。 |
| 3年 | ・適切な進路指導による生徒の自己実現へのサポート。生徒の社会人として必要な資質の育成 | ・面談を重ね、適切な進路情報を提供することで、生徒が自分の適性にあった進路選択ができるように努める。生徒の基本的生活習慣の確立やコミュニケーション能力の向上に努める。 | ・面接指導や工場見学を通じ、社会とのつながりを意識させる。内定後の学習・生活習慣の意識低下のないように留意する。 |
| 教職員の勤務時間管理と健康障害防止 | ・業務の適正化及び平準化 ・長時間労働による健康障害の防止 | ・1か月間の時間外労働が80時間を越える教職員に対して面接指導の希望の有無を確認するとともに、分掌等の業務の適正化及び平準化を図ることにより、教職員の健康障害防止に努める。 ・在校時間等の状況記録やストレスチェックの結果を活用した業務の適正化と健康維持。 | ・業務の適正化及び平準化を図るとともに教職員の確実かつ適切なメンタルヘルスの保持に努める。 |
| 学校関係者評価を実施する主な評価項目 | ・技術・技能とともに、心も磨かれた社会人として活躍できる人材育成 ・各種資格取得と各種技能大会への参加によるものづくり技術向上 ・学校の活性化を図るための工業分野以外の諸活動の充実 ・保護者・地域・幼小中学校・企業・同窓会等との連携強化 | | |

(4) 前年度の学校評価
ア 自己評価結果等

| 重点目標(平成30年度) | | 校訓「技術者たる前に人間たれ」の精神のもと、技術・技能とともに心も磨かれた社会の人財となるチャレンジ精神旺盛な人材の育成を目指す。 キーワード：SKILLS & SPIRITS (技と心を磨こう) 実践メ・リ・エ (めげずに挑戦・理想へ考動・笑顔で会話) 徹底5S (整理・整頓・清掃・清潔・しつけ) | |
|--------------|--|--|--|
| 項目(担当) | 重点目標 | 具体的方策 | 評価結果と課題 |
| 総務 | ・防火、防災意識の向上 | ・年度当初に防災訓練を実施し、2回目の防災訓練を充実させるなど防災教育の意識高揚を図る。 | ・2回目の防災訓練では、土木学会中部支部の出前授業を活用して、震災のメカニズムなど基礎知識を学び、その中で情報機器をどのように活用すべきかを学ぶことができた。今後は更に判断を早くできるような力を身につけさせていきたい。 |
| | ・PTA活動の充実 | ・導入予定のメール配信サービスを活用し、より多くの保護者に向けて専門部班による活動内容の浸透を図り、各行事への参加者の増加につなげていく。 | ・夏の夜間街頭補導や、修学旅行の学校到着時間の連絡など、メール配信サービスを適切に運用することができた。まだ登録をしていない方も多くいるので、登録を促して100%登録に近づけ、緊急時等の情報提供に役立てていきたい。 |
| 教務 | ・校務支援システムを利用した成績処理の合理的運用を検討 | ・校務支援システムの利用について、意見集約し、成績処理に関する単純化、時間短縮化を図る。 | ・成績の審議を行ううえで、校務支援システムで作成できる成績会議資料を採用することを検討したが、従来通りの本校独自の資料で審議することになった。なお、クラス状況資料などは、書式を見やすくするなどの改善を行った。 |
| | ・新学習指導要領に関する周知と理解の促進 | ・教科主任会を通して情報提供及び教育課程改編等について検討する。 | ・職員会議にて総則などの内容を示すとともに、本校の「横断的学習」内容を見える化するため、行事、学習などの紐付けを行った。 |
| 生徒指導 | ・基本的な生活習慣の確立 | ・挨拶の励行、遅刻の減少、身だしなみを整えさせることにより基本的な生活習慣の確立につなげる。 | ・遅刻数以外は、良好である。授業規律を高め、遅刻数を減らしていきたい。 |
| | ・規範意識の向上 | ・法令、校則を遵守させる。 | ・問題行動は減少した。スマホの本校のルールが守れない生徒がまだいる。自ら考えて行動できるように指導していく。 |
| | ・いじめの未然防止に係わる取組の充実 ・いじめの早期発見、適切な事案対処、再発防止 | ・全校集会や学年集会、ホームルーム活動において、いじめ防止をテーマにした活動を行い、生徒がいじめ問題を主体的に考える機会を設ける。 ・いじめの情報収集、事案対処に係わる学校いじめ防止対策組織の役割を具現化し、教職員間で共有するとともに、生徒や保護者にも周知する。 ・いじめアンケートの実施方法やその後の対処の在り方について検証し、いじめの早期発見、適切な対応に繋げる。 | ・いじめに関するアンケート、長期休業後の生徒アンケートや担任面談を通じて、いじめ等の早期発見、再発防止に努めてきた。いじめを発見し、適切な対応をとってきた。 |
| 特別活動 | ・校内行事の整理と充実 | ・球技大会のルールや順位付けを明確にする。 ・体育大会の円滑な実施に向けて内容や方法を検討する。 ・文化祭における出展者の負担軽減を図る。 | ・球技大会は円滑に進めるため一部ルールを変更し時間内に終わることができた。体育大会は効率的な運営を目指したが、改善事項が多く残る結果となった。文化祭は出展内容について打ち合わせを密に行ったが、準備作業でのケガや物品破損等が目立ったため、来年度の課題にしていきたい。 |
| | ・ボランティア及び環境活動の活性化 | ・各ボランティアの募集、活動内容紹介など、広報活動を活発にする。 ・ペットキャップ回収活動・人力発電装置の活用を積極的に行う。 | ・キャップ回収は84人分のワクチンに相当する回収を実現できた。引き続き回収活動に貢献していきたい。また、刈谷市社会福祉協議会が主催するサマーボランティアへの積極的な参加を更に促していきたい。人力発電機は更なる有効活用に向け部活動に周知していきたい。 |
| 進路指導 | ・就職率100%の維持 | ・社会の人財となることを念頭に、就職試験でも勝ち抜き・徳・体の育成を図る。 ・生徒の希望と企業の要望とのマッチングをよりスムーズにできるような情報提供を充実させる。 | ・2次募集になった生徒もいたが、今年度の求人状況は昨年度にも増して好調で11月中には全員内定が得られた。ただ、1次試験の結果を受けて進学に切り替えたり、公務員から一般企業に切り替える生徒もいた。 ・企業情報を担任、生徒に的確に提供できるようにする。 |
| | ・進学希望に応える受験指導 | ・大学受験の相談、支援を充実させる。 ・専門学校等の紹介機会を充実させる。 | ・進学希望者は昨年度より増加し例年並みになった。推薦などで希望校に合格した。 ・1, 2年生向けの進学資料を作成する。 ・新入試に向けての準備をする必要がある。 |
| 保健 | ・教育相談活動の啓発 | ・教育相談を身近なものにするために、啓発方法を工夫する。 | ・保健日より、相談だよりを毎月発行し、適宜必要な情報を提供できた。SCとの連携も上手くでき、教育相談が必要な生徒に対し、早めの対応をすることができた。課題としては、生活習慣の改善が必要な生徒への指導を強化していきたい。 |
| | ・安全・安心な学校環境の確保 | ・安全点検によって、校内の不良箇所を早期に発見する。 | ・毎月実施される安全点検の結果をもとに、事務との連携を密に図ることで、校内の不良箇所に対して迅速に対応できた。 |
| 図書 | ・工業高校としての特色ある図書館の整備 ・生徒の読書を推進する図書の充実 ・視聴覚教材の充実 | ・工業高校としての特色のある図書館を目指す。 ・図書委員を中心として生徒の興味がある本を必要に応じて購入する。 ・DVDなどの視聴覚教材の充実を検討する。 | ・「図書館だより」など図書委員の活動を積極的にすることが出来た。 ・視聴覚教材の充実のためにDVDなどの原理がわかりやすい教材の選定や購入を行うことが出来なかった。各先生からのDVDの推薦などを頂けるように計画的にする必要がある。 |
| 研修情報 | ・初任者研修や経験者研修の計画的実施 | ・研修対象者との連携を密にし、研修者が計画的に進められるようにする。 | ・昨年度より、日程等を早期に把握できたため、研修対象者への連絡もスムーズにできた。 |
| | ・古い情報機器の整理 | ・古い情報機器を整理し廃棄に努める。 | ・本年度、教員用サーバーの更新が有り、サーバー室の整理ができた。また10年以上経過したネットワーク機器等も更新できる予定である。 |

| | | | |
|-------------------|--|--|--|
| 工務 | ・資格・検定取得の推進 | ・ポスターを掲示し、計画的な受検を促す。 ・申込書、テキストなど受検準備の補助をする。 | ・QC検定のテキストの斡旋は予定通り実施できた。聞き伝えの情報では、同時期に検定を重ねてしまい片側の試験の受験をあきらめた生徒がいたようである。良い方策は思いつかないが、改善できるように考えたい。 |
| | ・地域との連携 | ・地域の行事、催し物に協力する。 | ・今年度概ね問題なく実施できた。定期試験と重なってしまう地域の行事があるので、引き続き熟考して取り組みたい。 |
| | ・安全作業の推進 | ・工具等の整理、工場の清掃を推し進め、安全な環境づくりをする。 | ・ここまで大きな事故など無く安全作業で進められている。まだ、年度は終わっていないので気を緩めることなく授業等実施していきたい。 |
| 機械科 | ・安全、規範意識の向上と検定の合格 | ・普段の挨拶や入室マナーを向上させるとともに5Sの徹底により各自が責任を持って考えて行動できるように指導をする。 ・検定学科は過去問を配布し学習させる。 | ・溶接、機械加工実習室は5Sにより良い状態に保たれている。旋盤検定75名合格、製図検定は33名合格と半分以下になってしまった。3年の製図担当が毎年変わっているので引き継ぎをうまくしたい。 |
| 自動車科 | ・三級自動車整備士取得 | ・授業の中で三級自動車整備士の資格取得への目的意識を高め、そのための目標として6月に実施される県工研自動車整備検定試験の合格を定める。合格率80%以上となるよう早期から指導を行う。 | ・3月の国家検定試験合格への足掛かりとして、整備検定試験を位置付けたが、目標の結果には及ばなかった。ただ、整備士を前提とした実習への取組みは良く、技術・技能の習得へ生徒の前向きな姿勢が見られた。この状況を資格取得の意識付けへと繋ぎ、整備士関連の座学の中でも問題を解く時間を設けながら自信をつけていきたい。 |
| 電気科 | ・第二種電気工事士の資格取得 | ・筆記試験対策は、試験日直前まで生徒対象に授業後補習を行う。 ・実技試験対策は、1学期期末試験最終日より試験前まで筆記試験合格者全員に授業後に実技補習を行う。 | ・実技試験のみの受験者を含めた合格率は、上期67%、下期82%であった。学校行事の日程と回数に制約のある中でよくできた。 |
| 1年 | ・基本的な生活習慣の確立と基礎学力の向上と定着 | ・時間や規律を守らせ、授業を重視し落ち着いた学習活動に取り組ませる。 ・日常の清掃をしっかりと行い、高校生としての基本的な姿勢を身につけさせる。 | ・基本的な生活習慣を身に付けることができず、遅刻や欠席をする生徒がいた。また、提出物の期限を守れない、授業用具を忘れるなどの不注意も多かった。全体的に意識の低さがあるので、今後も時間を守ることなどの基本的な生活習慣を大切に指導していきたい。 |
| 2年 | ・進路設計に対する意識の向上 | ・インターンシップや進路希望調査、工場見学などを通して、生徒が進路先の情報を収集できるよう促し、進路設計に対する意識向上につなげる。 ・部活動や校外行事などへの参加を通じ、技術やコミュニケーション能力の向上を図る。 | ・インターンシップやクラフトマンなど、進路選択を見据え、積極的に行動する生徒の様子が見られた。しかし、学校生活において、目的意識を持ってない生徒、考えや思いはあっても行動に移すことができない生徒も見られる。生徒の実状に則した、きめ細かい指導が必要である。 |
| 3年 | ・適切な進路指導による自己実現への援助 ・社会人として必要な資質の向上 | ・生徒に対し適切な進路情報を提供し、助言を行なうことにより、生徒自ら希望進路先を考えられるよう努める。 ・基本的な生活習慣や5Sとともにコミュニケーション能力を身につけさせる。 | ・求人数の増加もあり、今年度は就職試験を不合格になる生徒が非常に少なく、斡旋希望者全員が11月には内定した。 ・内定から卒業までの数ヶ月緊張感を持続させることが課題である。 |
| 教職員の勤務時間管理と健康障害防止 | ・業務の適正化 ・長時間労働による健康障害の防止 | ・1か月間の時間外労働が80時間を越える教職員に対して、面接指導の希望の有無を確認するなど、教職員の健康障害防止に努める。 | ・面接指導の希望の有無を確認するとともにメンタルヘルス相談等の周知を図るなど、健康障害防止に努めることができた。 ・業務の平準化を図り、時間外労働の偏りを解消することが必要である。 |
| 総合評価 | | ・校訓「技術者たる前に人間(ひと)たれ」の下、落ち着いた雰囲気教育活動を進めることができた。 ・各分掌、学科、学年において、それぞれの重点目標達成に向けて確実に取り組むことができた。 ・学校内での学習活動や特別活動、部活動に加え、様々な校外での競技会や地域貢献活動に取り組むことにより、より生徒の成長を図ることができた。 | |

イ 学校関係者評価等

| | |
|------------------------------|--|
| 学校関係者評価を実施した主な項目 | ・技術、技能とともに心も磨かれた社会人として活躍できる人材育成 ・各種資格取得と各種技能大会への参加によるものづくり技術向上 ・学校の活性化を図るための工業分野以外の諸活動の充実 ・保護者、地域、幼少中学校、企業、同窓会等との連携強化 |
| 自己評価結果について | ・非常に落ち着いた雰囲気を保ちながら教育活動を実践している。 ・重点目標が達成できた項目が多く、今後もより一層充実した教育活動を望む。 |
| 今後の改善方策について | ・学校の活動成果について、更に積極的に広報することを期待する。 ・企業から信頼される人材の育成に努めることで、地域から更に高い評価を得ていくことが必要である。 |
| その他（学校関係者評価委員会から出された主な意見、要望） | ・遅刻者数については、家庭に協力を求めるなど、複数のアプローチによる対応が必要ではないか。 ・1年間の研究成果については、校内のみならず、様々な場面で校外に向けても積極的に周知できるとよい。 |
| 学校関係者評価委員の構成及び評価時期 | ・構成・・・学校評議員 ・評価時期・・・2月下旬 |

(5) 経営管理上の問題点等

ア 施設・設備の改善

(ア) 教育目標の実現に向けて施設設備の充実と改善を図り、安全で効果的な教育活動の実現を目指す。

(イ) 学科の特性を踏まえ、基礎的・基本的内容の充実と同時に新しい技術の習得に向けた環境整備を進める。

イ 組織・運営関係の改善

(ア) 年度の重点目標を踏まえ、職員の共通理解と協働意識を一層高めることで組織としての取組を充実させる。

(イ) 地域での活動を重視するとともに保護者との連携を密にすることで、学校組織に対する評価を職員間で共有する。